

分校の窓

H26.9.2

室戸市立元小学校との 居住地校交流の様子（小学部4年生）

田野分校が開校して4年目を迎えていますが、開校当初からずっと居住地校交流を続けてきた室戸市立元小学校との第1回目の交流学习が、9月2日(火)に室戸市の元海岸を中心に行われました。

高知県内の方は、すでにご存じの方が多いと思いますが、元小学校は海岸に産卵したウミガメの卵を保護し、校庭の隅に作られたふ化場で卵を孵化させ、放流する活動を昭和40年代から始め、50年を超えた今でも継続して取り組んでいます。

そんな元小学校との交流の柱も、もちろんウミガメの放流。保育園の時から友達に囲まれて、楽しい交流を行ってきました。



元小学校から、4年生のみんなと歩いて約5分。元海岸に到着。

この日は、本当に久しぶりの青空に恵まれ、たった5分間の移動だったにもかかわらず、びしょり汗をかきました。（大人だけです）





ひとまず集まって、自己紹介とご挨拶。田野分校から参加の4年生K君もお辞儀して「あー！！」と声を出して挨拶できました。



中を開けると…



優しくもって



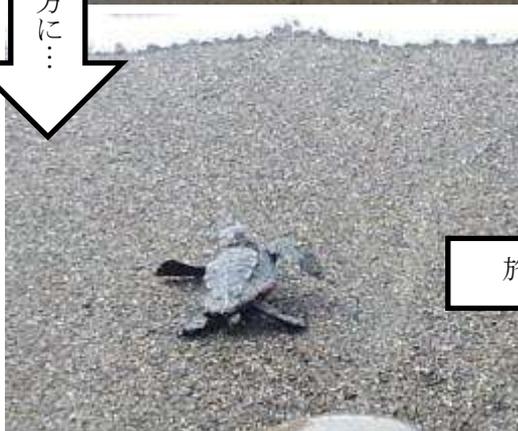
浜に置くと



ちゃんと海の方に…



旅立っていきました





直接交流学習とは関係ないのですが、この行事を始め
て50年近くということは…と思い元小学校の校長先生に、「最初に放流した
ウミガメが親になって産卵に来ているのかもしれませんがね」と尋ねると、校長
先生は優しく微笑み「そうなんですよ。ロマンがあっていいですよ」とおっ
しゃってくださいました。



「大きくなって帰
っておいでね。」の思
いを託して、元小学校
のみんなと K 君も放
流をしました。その後、
K 君を真ん中にして、
波打ち際で K 君の足
を砂で埋めたり、防波
堤を作ったりして楽
しいひと時を共に過
ごせました。

引率している教員
が「〇〇しましょう。」と声を掛けなくても自然発生的に始まる言葉を必要とし
ない遊び。インクルーシブとまではいかななくても、「共に課題を同じにして、共
に目的を共有した時間を過ごす」ことの大切さを感じた居住地校交流でした。